３．＜実施報告＞

「霞ヶ浦・北浦 アサザプロジェクト訪問スタディツアー」

日　時　：　2006 年 2 月 14 日（火）　8：00～19：00
訪問地　：　霞ヶ浦・北浦流域での「アサザプロジェクト」モデル地域
（茨城県石岡市周辺）
参加者　：　26 名（学大生 14 名、一般 8 名、教員・スタッフ 4 名）

◆ 案 内・解 説
講師： 飯島 博 さん （NPO 法人アサザ基金・代表理事）

◆訪問スケジュール
8：00 学芸大正門集合・貸切バスに乗車し出発
11：15 小学校訪問
（学校ビオトープ・企業との共同開発モニタリングシステム）
12：15 国土交通省との協働による植生帯復元地区訪問
12：45 昼食及びミニレクチャー＆意見交換会（講師：飯島 博さん）
15：00 山王川ビオトープ訪問（休耕田ビオトープ・都市排水路環境改善）
15：25 水源地域＜谷津田＞の保全地区訪問
16：00 現地出発
19：00 学芸大到着・解散

■アサザプロジェクトとは？　http://www.kasumigaura.net/asaza/
湖の再生事業であると同時に、地域振興や地域ぐるみの環境学習プログラム。流域の１７０の小学校、企業、一般市民を含む１０万人がアサザの里親制度や湖岸植生帯の復元事業などに参加。小中学校への環境教育プログラムの提供も行っている。１９９８年版環境白書で「住民による源流から湖までトータルできめ細かな流域管理を目指す先進的事例」として紹介された。「霞ヶ浦・北浦をよくする市民連絡会議」の一事業部門として１９９９年に設立された特定非営利活動法人「アサザ基金」がプロジェクトの運営に当たっている。

〈スタディーツアーの様子〉

小学校での学校ビオトープ訪問

湖岸の植生帯復元地区

小学生が育てたヨシ・アサザなどが岸辺に植えられている

休耕田を活用するオニバス・ビオトープ

水源地の谷津田保全地区

湖岸にて記念写真

＜ スタディツアー参加者の感想 ＞

学芸大生：女性

12月の講演会で飯島さんの講演会を聴いて、アサザプロジェクトに興味を持ち、実際に現場を見てみたいと思い、今回のツアーに参加した。アサザプロジェクトでは、小学生が水草を育てたりするだけでなく、お年寄りから聞き取り調査などを行うことで、世代間交流も実現させているという。年配の方々から話を聞くことは、景観や生態系を復元する上で不可欠であるし、それ自体が子どもへの環境教育にもなる。また、それにより、プロジェクトに参加していなかった方々も何らかの形で参加するようになり、地域全体を巻き込むことが出来る。そういったことまで計画している飯島さんに驚くばかりだった。世代間交流の重要性を改めて感じた。

学芸大生：男性

今回のスタディツアーは、これまでの多摩川エコモーションの講演会の集大成として位置づけることができ、有意義な時間を過ごすことができた。今回は第2回の講演会でも演者として来ていただいた飯島博さんの「アサザプロジェクト」の活動地を訪問するものであったが、ツアーを終えて、特に心に残ったことは、飯島さんのすごさと子どもたちの影響力の強さである。

まず、飯島さんは正直“超人”であった。あの発想力と行動力には改めて驚かされた。日本中には同じように市民主体の環境保全活動を夢見て動いている人は多いと思うが、飯島さんほど各省庁、企業と連携し、さらに広域の市民を取り込んで活動をおこなっている人はまずいないだろう。そういう意味で、飯島さんの存在は活動者や学生の目標であり希望でもあるといえる。

次に、アサザプロジェクトが子どもたちの活動を重視していることが良く理解できた。小さいはずの子どもたちの力でも170もの学校が集まれば、研究者に負けない、いや、それ以上の力を発揮できるということを実証していると感じた。子どもたちの活動というものが各省庁や企業といった社会的権力の強い組織と同等の確固たる位置に置かれネットワークに組み込まれていること、つまり、子どもたちに社会的責任を負わせるというある意味逆の発想に感動した。子どもたちも自分たちの活動が社会に対してどのような影響を持っているのかを自覚できたほうが、ただ学校活動の一環としてビオトープを作るより、はるかにやりがいを持つことができるし責任も感じることができると思う。子どたちの力は大人を引き込むことや正確かつ大量のデータを取ることができるという点で市民活動には不可欠なものであるということが実感できた。アサザプロジェクトの中に、子どもから国家が環境保全という理念を連結点として結びついたという夢のヴィジョンの一端を見ることができた気がした。

今回は市民と企業や国が結びついたというある意味夢のような例であったが、また今度ツアーを企画する際には、もっとシビアで営利目的の強い企業の側から見た環境保護活動や市民との活動の実態を見れるものも考慮に入れていただきたい。

学芸大生：男性

私はアサザプロジェクトの素晴らしい発想に驚くばかりでした。既存の社会システムに環境保全機能を組み込むこと、中心をもった組織ではなく、協働の場をもった緩やかなネットワークの構築、伝統技術の利用、小学校を基本単位としたネットワークの形成などの発想はとにかく素晴らしいです。やはりこれは生活者の視点を持ったNPOの参加の力によるのでしょうか。それとも何か他の活動を参考にするところもあったのでしょうか。気になります。

訪れた場所で一番印象に残ったのは小学校のビオトープです。ビオトープを観察しに来る多くの子どもによって土が踏みならされ、池の周りには草が生えないという話を聞いたとき、何かおかしいなと思いつつも、子ども達がそんなに一所懸命取り組んでいるのかとうれしく思いました。子どもたちの心に確かに自然を思う心が芽生えている。今、アサザプロジェクトでビオトープ活動に参加している多くの小学生が大人になったときが楽しみです。アサザプロジェクト、エコミュージアムの素晴らしさを感じました.

一般参加者：男性

日頃、市街地をウロウロしているものにとってはじめて接する霞ヶ浦の広大さにびっくりしました。晴天に恵まれ、日頃の憂さを解消できた一日でした。

2年前に、NEC府中事業所で飯島氏の講演を聞く機会がありました。どこからこのような素晴らしい発想や構想とともに企画力、実行力が生まれるのか、に興味を持ちました。飯島氏の人間的魅力に取り込まれたことが正直な実感です。

自分なりに地域で環境保全活動をしているつもりでしたが、観念的な活動の域を出ないのではないかと気づいたことも大きな収穫でした。

今回、フィールド見学で淡々とご説明される中に、戦略的な対応とか、社会システムも含めた循環社会形成の重要性とか、それらを実践していること、官公庁の縦割行政の弊害を克服するために、例えば教育委員会を経由せず、子どもに直接働きかけた発想は単に方法論にとどまらず、子どもを客体ではなく、主体と考え、信頼していることが大きな広がりにつながったのだと納得できました。

また、トキが舞う 100 年計画のように壮大な夢とそれに至る段階を践んだ 10 年、20 年という具体的行動目標の提示により、市民参加をひろがりのあるものにできた要因があると思いました。

今、地域における環境保全活動は対行政と関わる比重が大きいが、協働が思うように推進できない現状をややもすると行政批判に転嫁しがちな雰囲気があります。それは自分達の発想・企画力や市民参加を促すアイディア不足を棚にあげた自己満足の世界ではないかとの思いがあります。

今後、もっと多くの仲間とアサザ・プロジェクトに学ぶ機会を持ち、模索する活動に新風を吹き込めないかとひそかに期待しているところです。

一般参加者：男性

アサザプロジェクトの名前は以前から聞いており、一度現地を訪ねてみたいと思い参加しました。

以下の点について特に印象付けられました。

①自然再生事業としてのプロジェクトとして聞いておりましたが、もっと広く地域全体の社会システムのありようにまで視野を広げたプロジェクト。

②時間的にも、１００年後の目指す姿を示しながら、今の課題・目標の設定、達成を目指す。

③空間的にも、「カエル」から「渡り鳥」と地域から地球規模までを視野に入れる。

④上記の必然の結果として、各セクターの協働、国際間の連携までを視野に入れる。

各地域での取り組みに当っては、持続可能社会構築という視点からみた、その地域の「地域資源」の発見・活用が基礎にあるということであり、多摩川流域での具体的な展開が求められているものと考えます。

スタッフの皆様、アサザ基金の皆様、参加者の皆様、ありがとうございました。

一般参加者：女性

多摩川エコモーション「アサザツアー」では，ほんとうに，たっぷりと実地で勉強させていただきました。最高のエコツアーでした。感謝＆感謝＆感謝・・・です。「アサザプロジェクト」という名を初めて聞いたのは、山の自然学講座で鷲谷いづみ先生のお話をお聴きしたときだったと思います。その後、『サクラソウの目』、『生態系を蘇らせる』『保全生態学入門』『自然再生』などを読み、いつか、ぜひ、アサザプロジェクトの現地を見学させていただきたいものだと思い続けておりました。

12月の講演会で飯島さんから直にお話を伺うことができ、また今回、参加させていただける、ということになってから、アサザプロジェクトのHPを拝見して、飯島さんが縄文土器がお好きで、しかもしかも、永楽和全という名に　「はっとしたた」　・・・・・・・ということに、「あ！　やっぱり！　こういう感性の持ち主でいらっしゃったのだ！」とうれしくなりました。飯島さんの頑張りがあって成り立っているプロジェクトなのだと、昨日あらためて感じ入ったのですが、その土台にあるのは、やはり、そういう謙虚な心なのですね。

昨日、いちばん印象的だったのは、さまざまなプロジェクトを構想・立案し、立ち上げ、継続していくことはどんなにか大変なことかと私のようなものにも察しられるのに、飯島さんご自身が、いかにも楽しそうに話されていたことです。「自分自身が楽しむこと！」「それでなければ続かない」　と教えていただいたような感じがいたしました。ついでながら、霞ヶ浦の逆水門は、ぜひとも開けていただきたい！　です。長良川河口や有明海を見れば明らかだと思うのですが、川と海がつながっているということは大切なことだと思います。必要なことだと思います。ほんとうに，ほんとうに，ありがとうございました！！！

一般参加者：女性

アサザプロジェクトへの関心では、水や緑、生き物といった自然環境再生の施策もさることながら、その展開法やつなげ方に興味がありました。市民活動が学校や行政とつながることは、どの地域でも大きな課題であり困難を抱えていると思います。でも、飯島流展開方やつなぎのデザインには、＜遊び＞を感じました。それは決してイイカゲンで良い、と言う事ではなく緩やかさ、良い加減、とでも言うのでしょうか、いっぺんで見栄えも良い狙い通りのものを作ることが目的ではなく、隙間を認めながら、では次はどうしたらよいか方策を練っていくというしなやかな強かさが重要と再認識いたしました。それが長い時間続けながら確実に達成されておられるのは、目標を初期、中期、長期としっかり見定めておられるからでしょう。そして、明確なビジョンを背骨として貫くこと。アウトプットのわかりやすさも目からうろこでした。かえるやトンボを小さな弱い生き物だから大切にしよう、というメッセージではなく、その行動半径が私達の暮らしの単位と結びついている、と言う発想は、人の暮らしの足元と生き物としてのヒトを改めて振り返りながら、命に優しい気持ちを寄せられます。

子どもを活動の主役に置く事で、学校や大人たちを変えていく取り組み法は大変元気つけられました。私達も地域に遊び場を作ればよいと言う事ではなく、子どもの心に寄り添いながら子育てを支え、社会の意識も変えていくウェーブを起こしたいと考えています。その為にはお金の流れを変えていく、経済の勉強もしなくては！